



ボランティア
健康サポート



「写真上」開会式でコースごとに整列した研修生
「写真右」真剣に折り紙の手順を見つめるチビっ子



パフォーマンスで観客を盛り上げたコーラス(写真左)



子供たちに愛嬌をふりまく
ギニヴァンツのマスコット

写真で見る 第18回穴生学舎大学祭 & ドームフェスタ



▲懸命にエコ金魚すくいに挑戦する子供たち

4か月の準備 素晴らしい成果

新木 秀敏 所長

「夢追いたい」の皆さんによるよさこい踊りで始まったお祭りも、いよいよフィナーレ



新木所長

を迎えました。今年は好天にも恵まれ、素晴らしい大学祭でした。これも、各コースが4か月をかけて準備した努力の賜物でした。

ただ「ビッグランプリ全国大会 in 北九州」と日程が丸々重なったため集客力では後れを取りましたが、穴生学舎グルメ通りの熱気などは決して見劣りするものではありませんでした。この二日間の頑張りに誠にお苦勞様でした。



▲紙バック作りを体験するJICA研修員のお客様(中央の二人、下欄に関連記事)



▲興味津々で紙すき初体験の子供たち



「写真上、左」食の催事の出店はどこも好評で、たちまち長い行列ができた



▲チビっ子たちの歓声を乗せて走るミニSL



江戸心ぐさ 共感アンケート 心と身体の健康コース1、2班学習成果発表

- ① ありがとう 109人 43.3%
- ② 傘かしげ 44人 17.5%
- ③ お心肥やし 28人 11.1%
- ④ うかつあやまり 24人 9.3%
- ⑤ 時泥棒 17人 6.7%
- ⑥ 刺し言葉 16人 6.3%
- ⑦ 腕組み 9人 3.6%
- ⑧ 手斧言葉 5人 2.0%

同コースが学習成果発表の場で実施した共感度アンケートの結果がこれ。対象は参観者。300人に聞いて252人が答えた。

- ① ありがとう・・・元々『有難い』という言葉から来たもの。「減多にあり得ない」の意。
- ② 傘かしげ・・・雨の日の往来ですれ違う時、お互い傘を外に傾けること。
- ③ お心肥やし・・・オコココロヤシと読む。体を肥やすのではなく心を豊かにして学問し、人格を磨ける意。
- ④ うかつあやまり・・・相手に非があっても自分が謝ることでその場の雰囲気を作りよく保つこと。
- ⑤ 時泥棒・・・断りなく相手を訪問したり、約束の時間に遅れるなど相手の時間を奪うのは罪。
- ⑥ 刺しことば・・・「だから?」「それがどうした」など会話を断ち切るような言い方は良くない。
- ⑦ 腕組み・・・人前で腕組みや足組みをしない。ことに目上の人の前では失礼にあたる。
- ⑧ 手斧言葉・・・チョウナコトバと読む。「うるさい」「馬鹿野郎」「殴る」「殺す」といった乱暴な言葉づかいをしてはいけない。言葉の凶器だとされた。

大学祭 落穂ひろい

姉の形見の パッチワーク

生活情報コースの喫茶「秋桜」の店内に、パッチワークや、さげもん、が飾られて人目を引いた。いずれも見事な出来栄だったが、これはいずれも橋本鈴子指導員の姉で元研修生のウル子さんの作品。惜しくも5年前、病を得て亡くなられたが、数々の作品の存在を知っていたウル子さんの友人たちが、大学祭での展示を橋本さんにすすめ「皆さんに見ていただければ、姉も喜ぶだろう」と公開。お蔭で店内にはシックな雰囲気が出て、予期せぬ効果に関係者一同思わずニソマリ。

外国人のお客様 紙バックにも挑戦

JICAの研修員として滞在中のベネズエラの男性一名とタイの女性二名が、ひょっこり学舎にやってきた。これは知人の文化伝承コース・川村元治さんの誘いによるもの。同コースの催事、古新聞を使っている紙バック作りにも挑戦。昼食は、バザーでうどんをすするなど、一日たっぷり楽しんだ。「帰国したら、家族や友人に紙バックの作り方を伝えたい」とか。

それはともかく、彼らに英語で対応する川村さんに陣の目がハート・・・。

栗弁当は完売 眠れぬほど心配

準備した栗弁当300食を売り切ったホッとしたのが学内喫茶「たんぼぼ」の木下美千代さん。祭りの数日間、売れ残りはしないかと「心配で心配で」夜もおちおち眠れなかつたほど。人出は「去年より少し少なめ」だったが400円のサービス価格も効いてか、完売。「店内で食べるより、お持ち帰りが多かった」そう。

ダンデイが使役 二日で100リットル

喫茶「秋桜」のコーヒーが美味しかったとの評判。それもそのはず、水は生活情報コース・宮崎長康さんが上野峡から汲んできた名水。長身細身のダンディな宮崎さんが見栄も外間も振り捨て、20リットのポリタンクを振り分け荷物に5リットのペットボトルを両手にさげ、一日50リットルずつ、合計100リットルの水を運搬。「ご苦労をおかけしました」とコース一同脱帽。